

会議録

会議の名称	第42回茨木市こども育成支援会議
開催日時	令和3年3月22日(月) 午後6時00分～午後6時43分
開催場所	上中条青少年センター 青少年ホール
出席委員	植田委員、上道委員、大森委員、加藤委員、河田委員、下田平委員、西川委員、西之辻委員、西松委員、福永委員、前田委員、三角委員、水野委員、宗清委員、山戸委員 (五十音順)
欠席委員	上木委員、河本委員、柴田委員、舟木委員、森委員 (五十音順)
事務局	岡こども育成部長、東井こども政策課長、中井子育て支援課長 山寄保育幼稚園総務課長、村上保育幼稚園事業課長、戸田学童保育課長、 中坂こども政策課課長代理兼子ども・若者支援グループ長、 中路保育幼稚園総務課課長代理、藤岡子育て支援課発達支援係長、 白波瀬こども政策課政策係長、片岡こども政策課職員、山鹿こども政策課職員
案件	■会議案件 (1) 特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員(確認)について ■報告事項 (1) 茨木市立幼稚園のあり方について (2) 障害児福祉計画(第2期)の策定について
配付資料	特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員(確認)について 茨木市立幼稚園のあり方について 障害児福祉計画(第2期)の策定について 第42回茨木市こども育成支援会議 事前質問等

発 言 者	発 言 内 容
こども政策課 東井課長	<p>ご案内の時間となりましたので、茨木市こども育成支援会議を開催いたします。本日は大変ご多用のところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。なお、本日は新型コロナウイルス感染症対策として出入口を開放し、換気を行いながら会議を進めさせていただきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議の開会に当たりまして、こども育成部長、岡 和人からご挨拶を申し上げます。</p>
こども育成部 岡部長	<p>改めまして皆さん、こんばんは。本日はご出席ありがとうございます。年度末の気ぜわしい中、またこの夕刻の時間帯にお集まりいただきましてお礼申し上げます。また日頃は、本市のこども家庭支援の施策につきまして、それぞれのお立場からご尽力いただいていますこと、重ねてお礼申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>本日は審議いただく案件として一つ、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の確認という作業を毎年行われたいといけません。新年度に向けての確認ですが、その手続をお願いしたいことと、それから報告案件として2件、1つは昨年から審議会を立ち上げまして、茨木市立幼稚園のあり方を検討していただいております。その審議会からの答申をいただきましたので、その内容についてご報告をさせていただくと、障害児福祉計画第2期ですが、こちらは市の総合保健福祉審議会で議論いただきまして、計画案が取りまとめられましたので、その報告をあわせて行わせていただきます。</p> <p>それぞれのお立場から忌憚のないご意見を頂いて、活発な審議いただきますようお願いしまして、冒頭の挨拶といたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
こども政策課 東井課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは初めに、本日の委員の出欠状況についてご報告いたします。本日、所用のため欠席の連絡をいただいておりますのが、公募市民の柴田委員、私立保育園保護者の上木委員、幼稚園児保護者で茨木市PTA協議会の河本委員、子供の家施設長の舟木委員でございます。なお、本日、15名の方に出席いただいております。また、神戸総合速記株式会社が会議録作成のため、この会議に同席しております。</p> <p>それでは、茨木市こども育成支援会議条例第6条第1項の規定により、会議の議事進行を福永会長にお願いいたします。</p>
福永会長	<p>それでは本日、会議が半数以上の委員に出席していただいておりますので、こども育成支援会議条例第6条第2項により成立しております。</p> <p>なお、審議内容につきましてこれまでどおり、発言者の名前をつけて公表をさせていただきたいと考えておりますが、この件につきましてご異議ございませんでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（「異議なし」という者あり）</p> <p>それでは、会議録作成の関係上、どなたが発言されたかが分かるように〇〇ですと、お名前をおっしゃってからご発言をお願いいたします。</p>

	<p>それでは、会議案件（１）特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員（確認）につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。</p>
<p>保育幼稚園総務課 山寄課長</p>	<p>保育幼稚園総務課長、山寄と申します。</p> <p>特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員（確認）についてご説明を申し上げます。以降、着座にて進めさせていただきたいと思っております。失礼します。</p> <p>まず、資料１をご覧ください。こちら中央ブロック、東ブロック、西ブロック、南ブロック、北ブロックとございます。この右下のところ、市全体として見ていただきますと、３号で０歳児が１人と、１・２歳児が２１人と、合計で２２人の増。２号といたしまして、３から５歳児が８１人、１号で３から５歳が１２人の増、合計で１１５人の増となっております。</p> <p>その他、中央等の内訳について次のページでご案内いたします。ページをお開きください。まず中央ブロックでございます、中ほどにゆめひだまり保育園、こちらでございますが、３号１・２歳児のほうマイナス６、２号、３歳児がプラス２、４歳児がプラス４となっております。一番右端、認定こども園の東さくら保育園、こちらの１号が１５人の増となっております。一番下のほう、下の下段の一番右手、敬愛ルンビニ西中条、こちらは新設でして、３号０歳児が３名、１・２歳児が１３名で１６名の増となっております。差し引きいたしますと、左上のところ、合計で３１人の増ということになっております。</p> <p>次、東ブロック、次のページをお願いします。こちらでは、上の表で一番右端で、認定こども園ちとせ学院分園で１・２歳児が１６人の増、左上の東ブロックの合計を見ていただきますと、１６人の増となっております。</p> <p>次のページをお開き願います。西ブロックでございます。幼稚園では、めぐみ幼稚園で１号の定員のマイナスになっておりまして、２～３歳児がマイナス５、４歳以上がマイナス１０人、合計でマイナス１５人の減となっております。そして下の表、幼保連携型認定こども園の下穂積キッズでございますが、こちらが０歳児で３人の増、１・２歳児が１２人の増、で、２号で３歳児が５人の増、４歳以上が１０人の増、合計で１５人。そして１号ですが、３歳児が４人、４歳児以上が８人、合計で１２人の増となっております。一番右端でございます。こちらは茨木医誠会病院ひまわり保育園、こちらが閉園となりましたので、０歳児がマイナス５、１・２歳児がマイナス１４ということになりますと、左上のほうを見ていただきますと、０歳児がマイナス２、１・２歳児がマイナス２、合計でマイナス４。２号は３～５歳児が１５人の増、１号でマイナス３、合計でトータルいたしますと、８人の増となりました。</p> <p>次に５ページ、下の表のところです。南ブロックですけれども、こちらのほうは変更なしということになります。</p> <p>最後のページになります。北ブロックになりますが、こちらは保育所のところで、彩都敬愛保育園分園、こちらで３歳児が１５人の増、４歳児以上が４５人の増、合計で６０人の増となります。</p> <p>報告は以上でございます。</p>

<p>福永会長</p>	<p>それでは、ただいまのご説明でご意見、ご質問等ございましたらお受けしたいと思ひます。いかがでしょうか。</p> <p>特にご意見はございませんでしょうか。</p> <p>それでは、ご意見等ないようですので、この会議案件の1、特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員の確認につきまして、質疑を終了したいと思ひます。</p> <p>では次に、報告事項に移りたいと思ひます。</p> <p>報告事項の1、市立幼稚園のあり方につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>保育幼稚園総務課 山寄課長</p>	<p>続きまして、保育幼稚園総務課長の山寄です。これも着座にて説明させていただきます。失礼いたします。</p> <p>資料2、茨木市立幼稚園のあり方について、こちらは審議会の答申を得ました、報告案件でございます。まず1番、茨木市立幼稚園のあり方検討委員会の審議結果でございます。こちらのほうは適正配置の観点から統廃合を8園行うことは避けられないとされておりまして、沢池幼稚園と庄栄幼稚園の2園は公立として認定こども園化。天王幼稚園、北幼稚園、北辰幼稚園、東雲幼稚園、郡幼稚園、玉島幼稚園の6園の廃園をやむを得ないとしつつも、天王幼稚園は民間認定こども園とする。その他の5園は子ども・子育て支援など、市の課題解消につながる活用を行うことが妥当ということで答申をいただいております。</p> <p>2番、今後のスケジュールでございます。こちらにつきましては、以前にこの茨木市立幼稚園のあり方委員会においてお示しさせていただきましたスケジュール案でございます。令和3年4月、計画案のパブリックコメントの実施、5月に計画策定、6月に条例の改正で茨木市議会ということになっております。こちらにつきましては、あくまでも案でございます。</p> <p>また、その下、参考として、各スケジュールを掲載しております。沢池幼稚園につきましては、令和4年度に認定こども園化。天王幼稚園につきましては令和3年度、4歳児、新入園児募集停止して、事業者公募を行い令和4年度末に廃園とし、令和5年、令和6年度、園舎建替工事をいたしまして、令和7年度から私立の認定こども園と。北幼稚園につきましては同じく令和3年度に園児募集を停止いたしまして、令和4年度末に廃園、課題に応じた活用をしていく。北辰幼稚園はこれまで休園となっていることから、令和4年度末に廃園をする予定です。東雲幼稚園、郡幼稚園につきましては令和4年度に新入園児の募集停止を行いまして、令和5年度末をもって廃園し、東雲幼稚園については療育施設。また郡幼稚園については課題に応じた活用。玉島幼稚園につきましては令和6年度に新入園児募集停止をいたしまして、令和7年度末に廃園、課題に応じた活用をするということです。最後に庄栄幼稚園につきましては、認定こども園にするために令和4年、令和5年度に整備をいたしまして、令和5年度から認定こども園とさせていただきますような案を提示しております。また、こちらのほうにつきましては市でこういった内容をお示しし、答申をいただいておりますので、この答申を踏まえた形で、パブリックコメントなり市議会での条例の提案をしていきたいと思ひ</p>

	<p>ております。その他といたしまして、現在、認定こども園化しております5園、こちらにつきましては、幼保連携型認定こども園には移行せず、幼稚園型認定こども園として継続すること、理由といたしましては教育、保育のベースとなる幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育保育要領の3歳以上の幼児の部分の内容の整合が図られたこと、また幼稚園型ではありますが、保育を必要とする子どもの保育時間は保育所と同じであるためでございます。用語の説明と注釈を掲載しております。以上です。</p>
福永会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの説明でご意見、ご質問等ございましたらお受けしたいと思います。特にございませんでしょうか。</p> <p>特にございませんようでしたら、質疑を終えたいと思いますが、ただいまこの茨木市立幼稚園のあり方については、茨木市立幼稚園のあり方検討委員会の審議の経過がございまして、答申なされたものを今報告をいただいております。この会議の委員の皆さんの中にもこれをお聞きいただいて、何か確かめ、聞きたいことがありましたら質問を受けたいと思いますが、特にございませんようでしたら、次の報告に移らせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、どうもありがとうございます。</p> <p>それでは次に、報告事項の2、障害児福祉計画（第2期）の策定につきまして事務局からご説明をお願いいたします。</p>
子育て支援課 発達支援係 藤岡係長	<p>障害児福祉計画（第2期）の策定について説明させていただきます。子育て支援課発達支援係長の藤岡と申します。座って説明させていただきます。</p> <p>資料3をご覧ください。茨木市総合保健福祉計画（第2次）【中間見直し】（案）となっておりますが、この158ページから173ページというのが、障害児福祉計画になります。以前のこの会議でも一度、途中経過をご報告させていただいておりますので、その点から変更のありましたところのみ説明させていただきます。</p> <p>158ページをご覧ください。こちら、大阪府の基本的な考え方の中で追加の項目がありまして、この子育て支援の調和という観点から、障害のある児童の人数を推計することとありましたので、この計画案では3年から5年ですね。こちらに載っている障害のある児童数の推計を掲載しております。そのほか、掲載しております数字を若干修正しているところがございますが、計画内容や考え方に大きな変更はございません。なお、これからの予定ですが、明日の午後に総合保健審議会が開催されまして、そちらでご報告させていただき、ご承認をいただき確定という形になります。</p> <p>簡単ではございますが、説明は以上です。</p>
福永会長	<p>ありがとうございました。それでは、いかがでしょうか。ただいまのご説明でご意見、ご質問等ございましたら、お受けしたいと思います。</p> <p>前回の本会議で既に報告もいただいておりますことですので、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>ございませんようでしたら、本日の会議次第は、審議事項1点と、ただいまの報告事項2点ということでありまして、特にその質問、ご意見等ございませんよ</p>

	<p>うでしたら、次第は終えさせていただきたいと思います。こういったコロナの状況もありますので、早めに終わろうと思っておりますが、若干お時間もあることや、事前質問等をいただいているかと思っておりますし、子育て施策の関連で、何かご意見やご質問等がございましたらこの際、お受けしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。</p> <p>少しの時間でしたが、この事前質問も含めまして、何かこの場で発言いただきまして、確認していただければと思いますので、いかがでしょうか。</p> <p>早速、それでは西松さん。</p>
西松委員	西松です。茨木市立幼稚園のあり方について戻っていいですか。
福永会長	よろしいですね。それでは、お願いします。
西松委員	それぞれ、廃園以降の予定が書かれているのですが、自分の子供を幼稚園に預けていたときに、保育園というような形での移行をされると良いのかなと思っていたのですが、こども園になるところもあれば、まだ決まってないところもあったり、あるところは療育施設等になってたりするのですが、それぞれニーズがあって決められたのか、その辺りどのように決められているのか教えていただきたいと思っております。
福永会長	ありがとうございます。それでは今のご質問でよろしいでしょうか。お願いいたします。
保育幼稚園総務課 山嵯課長	<p>まだ決まってないところもございますが、療育施設というような議論でございます。茨木市立幼稚園のあり方を検討いただくときに、既にこの検討課題に挙がっております幼稚園では支援を要する子供たちもたくさんお預かりしているということがございまして、たくさんの議論をいただきました。幼稚園の統廃合をするときにそういった方の行き場がなくならないような対応が必要であろうと。あとは、私立幼稚園におかれましても、その支援を要するお子様をお預かりするのがなかなか難しいというようなご意見もいただいております。と言いますのは、やはり公立ですと、一定の配置が潤沢にできる場所ではあります。私立の場合、その運営費は保護者の方のお支払われるお月謝等によって補わないといけなという限界があるということもご指摘いただいております。そういった中で、本市といたしましては、公立施設が支援を要する子供たち全てをお引き受けするよりも、茨木市全体として、支援を要するお子様をお持ちの保護者、またそのご本人の方が施設を選べるようにすべきだというご議論をいただきまして、幼稚園、保育所等に通いながら行けるような、そういった療育施設が求められるというご意見もいただいております。東雲幼稚園の後にはそういう施設をというご意見をいただき、市のほうでご提案させていただいて、理解をいただいたところがございます。</p> <p>また、待機児童の関係でございます。ご指摘のように待機児童と言いますのは、実は本年度の4月1日現在はゼロということですが、今後の見込みを考えますと、やはり待機児童が出てくる可能性も見込んでおります。そういった中でこちらに書いております、天王幼稚園、こちらのほうはやはり1・2歳の待機児童が出るということで設計をしております、その行き場というものをきちんと整えない</p>

	<p>といけない、そういう観点から民営化をして0歳から受け入れていただく認定こども園、そのほかの沢池幼稚園につきましては、近隣に小規模事業保育所というのがございます。小規模事業保育所というのは、0から2歳までの施設でございます、2歳以降の待機児童の行き場の確保というところで、公立で3歳からの認定こども園ということ。最後は庄栄幼稚園の認定こども園化につきましては、今、例えば東芝跡地で今回、イオンができるとか、たくさんの開発がございます。まだまだその子供たちの受け入れ先が必要となりますので、現在のところは待機児童が出ているということもございませんが、そういう中で3歳からでも働きながら幼稚園に通いたいという保護者のニーズがあるだろうというところで認定こども園化を検討いたしました。そのほかの施設につきましては、待機児童であったり、その地域に応じた課題をしっかりと見定めまして、市として提案をしていかないといけないというふうに考えております。以上です。</p>
福永会長	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。 それでは、その他、ご意見ございましたら挙手していただけますか。</p>
加藤委員	<p>先ほど挙がっていた療育施設に、公立の施設ってあるんですか。この東雲幼稚園の廃園後の施設は、市が運営する施設ですか。どのような施設にする予定なんでしょうか。</p>
福永会長	<p>よろしくお願ひします。</p>
保育幼稚園総務課 山寄課長	<p>今現在のところ、そこまでの計画はまだ決まっておられません。</p>
加藤委員	<p>あと、私が事前質問で出したあけぼの学園があったと。市に一つしかないの、いろんなところから通っているのですが、別のあけぼの学園と同じような施設ができるかどうかというのを検討しますと書いてありますが、その実現はどれぐらいなのでしょう。</p>
子育て支援課 中井課長	<p>子育て支援課長の中井と言います。あけぼの学園、先ほどご説明させていただきましたが、療育施設という形で一つの案として挙がっています。その中であけぼの学園だけでなく、他の市内療養施設の状況を見まして、どのような施設が必要となるか、その求められるニーズに応じて、こういったことも考えていきたいというふうに考えています。今、事前質問でご意見いただいていますように、毎日通所するタイプの療育施設は、ご指摘のとおり市内には1か所しかございませんので、そういう意味からしますと、毎日通える施設を一つ増やすというのも方向性としてはありうるかなと現時点では考えております。ただ、どういったものにするか、どういう機能を付けるかというのはこれからの議論になってくると思っています。</p>
加藤委員	<p>私の近所で言うと郡幼稚園ですが、ここが廃園になって、今までその郡幼稚園に行っていた方は地域的に福井幼稚園に行くのかなと思うのですが、その受け入れるキャパはあると言っているのでしょうか。</p>
保育幼稚園総務課	<p>今現在のところ、郡幼稚園を廃止したときに福井幼稚園のほうでどうかというところでございます。今現在、10月1日時点では4歳、5歳ともに福井幼稚園</p>

山寄課長	<p>のほうでは一定枠がございます。今後、幼稚園に通う方が増えているのかということをお考えますと、子供たちの数は減って、保育ニーズは上がっている。保育所等の2号のお子さん、3歳、4歳、5歳の枠は増やしている状況でございます。ということは、1号で幼稚園を目指している方というのは減少する見込みと考えております。よって、福井幼稚園のほうでは一定数は確保できるとも考えておりますし、私立幼稚園にもそういった受け入れの要望はしております。以上です。</p>
加藤委員	<p>大変分かりました、ありがとうございます。</p>
福永会長	<p>ありがとうございました。そのほかにご質問等はございますでしょうか。</p>
下田平委員	<p>子育てサロンの下田平です。先ほどの話と続くんですけども、私のサロンに来てた親御さんで、私立の幼稚園の2歳児のクラス、週2回来てたんですが、3歳児の申込みをされる時に、あなたのおさんは障害というか、発達障害かもしれないので、私立幼稚園よりも公立のほうがこの子のために良いのではないですかということをおっしゃって、急遽公立のほうに変更されて、こども園に申込みされたんですが、人数が多かったので抽選ということになって、抽選に当たって、そこに行かれていますんですが、そういう場合、障害を持っている子供さんが公立の子供学級、こども園の中に必ず受け入れてもらえるというのは事実でしょうか。</p>
保育幼稚園総務課 山寄課長	<p>今現在のところ、そういった方を受け入れできるよう、小規模保育事業所の卒園児の受入れ枠が必要になってきております。小規模保育園事業所に入っても、3歳以上の行き先というのがある程度確保できますよということをおっしゃって目指しながら整備しております。そういったところが確保できますと3歳児からの行き先というの確保できるのかなとも考えております。また、私立でそういったようなことがあったということですが、市といたしましては、私立さんの受け入れをできない理由というのもお伺いしておりますので、そういったことがないように、例えば、公立幼稚園ですと加配と言いまして、介助員をつけることが可能ですけども、私立幼稚園さんのほうではなかなかそれがかなわないというような現状でございますので、そういった補助でありますとか、真摯に向きあったりとか、いろんなそういった支援を要する子供たちが施設を選べるような形というのを目指して、今、施策を考えておるところでございます。今後はそういったことがないように検討しているところでございます。以上です。</p>
下田平委員	<p>よろしく申し上げます。</p>
福永会長	<p>ありがとうございました。そのほか、いかがでしょうか。</p> <p>特に他によろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら、本日の次第は終了させていただきまして、ご意見、ご質問は終了させていただきたいと思っております。</p> <p>ちょっと時間が早いのですが、最後に私事ですが、今回の会議が私、最後の委員出席ということになります。この年度末をもって終了ということになりまして、ひと言だけご挨拶をと思っております。</p> <p>本会議、第3期、茨木市次世代育成支援計画を受けまして、第4期の計画をつくるために皆さんで協議、審議いただきまして、去年の、この3月に無事に答申を提出することができまして、そしてこの第4期の計画が始まって1年</p>

	<p>経とうとしております。私に関わらせていただきました、事業評価ですとか、あるいは茨木市の意識、意向、市民調査等を踏まえまして、無事に、この第4期計画を策定できましたことを非常にありがたいなというふうに思っております。特にこの間、委員のご発言の中から、これまでの事業の評価につきましても、プランを立てて、それをしっかりと見て、評価をしてアクションに移していくという形で、そういったサイクルで事業の評価を見ていったほうがいいのではないかとということもご発言がありまして、またそういうような形での取組もすることができて、そのことについても非常に良かったなと思っております。</p> <p>また皆様方も時に非常に鋭く、あるいは切実なご意見、ご質問をいただきまして、その中でも非常に建設的なご意見をいただきまして、この会議の運営にも非常に協力いただき非常にありがたいと思っております。どうもありがとうございました。</p> <p>それでは以上です。事務局のほうから何かございましたら、お願いいたします。</p>
<p>こども政策課 東井課長</p>	<p>今年度の会議につきましては本日で最後になります。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの開催になるなど、大変ご不便をおかけしましたが、無事に審議を終えることができ、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。</p>
<p>こども政策課 政策係 白波瀬係長</p>	<p>皆様をお願いしております委員の任期につきましては3月31日、今月末までとなっております。これまでお忙しい中、こども育成支援会議にご参加、ご意見いただきましてありがとうございました。なお、再任をお願いしております方につきましては来月以降、委嘱状を送付させていただきますので、よろしくお願いたします。また、本日お車にてお越しの方にお渡ししております無料の駐車券につきましては本日ご使用いただきますようお願いいたします。事務局からは以上です。</p>
<p>福永会長</p>	<p>ありがとうございます。それでは、これをもちまして第42回こども育成支援会議は終了とさせていただきます。</p> <p>本日も議事にご協力いただきまして、どうもありがとうございました。</p>